

分担研究報告書

パーキンソン病における歩行障害の客観的評価

- 携帯歩行計を用いたドネペジル内服の評価を中心として -

研究分担者：織茂 智之¹⁾

研究協力者：北園 久雄¹⁾，飯嶋 睦²⁾，大熊泰之³⁾

1) 関東中央病院 神経内科

2) 東京女子医科大学 神経内科

3) 順天堂大学医学部附属静岡病院 脳神経内科

研究要旨

パーキンソン病の歩行に影響を及ぼす薬剤について障害の客観的な評価は重要である。我々は、ドネペジルがパーキンソン病の歩行にどのような影響を及ぼすかを明らかにする事を目的に、DASH-PD 参加患者に、治験薬投与前後に携帯歩行計を用いて検討した。8例の患者において、携帯歩行計を用いた運動、歩行、睡眠時の長時間連続加速度記録が得られ、薬物治療の客観的評価に有用である可能性が示唆された。

A：研究目的

抗コリンエステラーゼ阻害薬はアルツハイマー病、レビー小体型認知症、認知症を伴うパーキンソン病の認知機能障害に対して有用である。一方でパーキンソン病の運動症状に対し、抗コリンエステラーゼ薬と全く反対の作用を有する抗コリン薬が奏功する事も知られており、日常的に使用されている。しかし抗コリンエステラーゼ薬のパーキンソン病患者の歩行に対する客観的な評価は行われていない。

本研究の目的は、DASH-PD 参加患者に、治験薬(ドネペジルまたはプラセボ)投与前後に携帯歩行計を装着し、ドネペジルが運動症状、特に歩行にどのような影響を及ぼすのかを検討する事である。

B：研究方法

本研究は当施設の倫理審査委員会の承認を得て、患者からインフォオームドコンセントを得て実施した。DASH-PD に参加している

8例のパーキンソン病患者に、治験薬投与前後に携帯歩行計(3軸加速度計)を装着し、日常生活中における運動、歩行、睡眠時の各種パラメーターをオフラインで計測した。

C：研究結果

8例のパーキンソン病患者において、携帯歩行計を用いた24時間前後の長時間連続加速度記録が得られた。歩行率、歩行加速度、運動量などの分析が可能であった。日内変動を有する患者では、歩行率や歩行加速度の変化が認められた(結果は解析中)。

D：考察

携帯歩行計(3軸加速度計)による24時間における運動、歩行、睡眠時の長時間記録が

分担研究報告書

可能であることが明らかにされ、薬物治療の客観的評価に有用である可能性が示唆された。
今後治験薬投薬前後の記録解析を行う。

E：結論

3軸加速度計によるパーキンソン病の歩行分析は有用であり、薬効評価に使用できる。

F：健康危険情報

問題無し

G：研究発表

（発表雑誌名、巻号、頁、発行年なども記入）

1：論文発表

なし

2：学会発表

なし

H：知的所有権の取得状況（予定を含む）

1：特許取得

なし

2：実用新案登録

なし

3：その他

なし